

5/20(月)17:00-18:00 「2023 年度決算電話会議」説明要旨

1. 小宮 CEO プレゼン

- 皆様、こんばんは。小宮でございます。本日はお忙しいところ、ご参加いただきまして、誠にありがとうございます。また、皆様には日頃より当社をご支援いただき、感謝申し上げます。
- まず、はじめに、私から、「今回の決算内容」と「2024 年度からスタートしております、新たな中期経営計画。この KPI ターゲット」、そして「これらを踏まえ、経営からのメッセージ」について、ご説明させていただきます。

【Key messages】

- 資料の 3 ページをお開き下さい。本日お伝えしたいポイントは、大きく 3 点となります。
- 1 点目は、「足元の業績」。即ち、「“2023 年度実績”と、“2024 年度予想”」についてです。
2023 年度の「Actual ベースの修正純利益」は「7,116 億円」と、直近 2 月に公表しました「通期見込み」であります「6,900 億円」を、+216 億円上回る結果となりました。
これは主に、第 4 四半期に見込んでいた「雪災の影響」が想定よりも少なかったことや、「政策株式の売却」が増加したこと等によるものです。
こうした「一過性の影響」を除いた「Normalized ベースの利益」は、2 月公表の 6,840 億円に対し「6,855 億円」と、通期見込み通りの着地となりますが、対前年では「+11%」成長と、当社ビジネスの基調は引き続き「強い」、「実力は確実に高まっている」、そう申し上げてよろしいかと思えます。
- そして、「2024 年度予想」ですが、「実力を高めた、ベースの利益」に、「政策株式“ゼロ”に向けた売却加速(による利益)」が乗りますので、修正純利益としましては、「1 兆円」。対前年で+46%を見込んでおります。
政策株式につきましては、当社はかねてより、一貫して「売り続ける」と申し上げてきました。
その中で、今般、「完了までの期間を“6 年間”」とすること。そして、「向こう 3 年間のマイルストーンは“半減”」とすることを決定しました。但し、当社としましては、これらに関わらず、可能な限り「前倒し」で、加速していきたい。その様に考えております。
- 2 点目は、2024 年度からスタートさせております「新中計の“KPI ターゲット”」についてです。
当社はこれまで、「世界トップクラスの EPS Growth を実現する」、「volatility を抑えながら Global Peers 水準に ROE を引き上げる」と、申し上げてきた訳ですが、新中計も「そ

の旋律の中」にあります。我々の旅は続きます。

具体的には、EPS Growth は、CAGR で「+8%以上」、「“政策株式の売却益込み”では、+16%以上」となります。ROE につきましては「14%以上」、「“政策株式の売却益込み”では、20%以上」となります。

これらのドライバーは、「高めてきた、それぞれの各事業の実力の伸長」に他なりません。この辺りは、今週金曜日に開催します「経営戦略説明会」にて、改めて十分にご説明させていただきます。

- 3点目は、「株主還元」についてです。
「“当社事業の利益成長”と、“株主還元の拡大”は整合的であるべきだ」という、私共の考えも、これまでと変わっておりません。
- その中で、当社の株主還元の基本であります「配当」ですが、先程申し上げました通り、当社事業の基調は引続き好調で、利益も拡大しておりますので、2023年度のDPSは、「利益の上振れ」を踏まえまして、年初計画の「121円」から「+2円増配」し「123円」とすることといたしました。
そして、2024年度につきましても、ご説明申し上げた利益成長と整合させる形で、「159円」といたします。これは、DPS Growthで「+29%」となりますが、勿論、引続き世界トップクラスであると考えております。
- 資本ストックに関しましても、引続きとなりますが、「規律ある資本政策」を実行してまいります。
足元のESRは「140%」と、充実した水準にありますので、2024年度の自己株取得は、現時点では「2,000億円」としたいと考えております。言うまでもなく、引続き年間を通じて、機動的に実行してまいります。本日は、最初の一步として、1,000億円を決議しております。
- 「資本政策まわり」につきましては、後ほどCFOの岡田より、ご説明いたします。
- それでは、「当社業績や事業の基調」、「新中計のKPI」につきまして、もう少し詳しくご説明をしたいと思います。4ページをご覧ください。

【トップライン】

- 先ず、トップラインです。
- 2023 年度の実績ですが、「正味収入保険料」は、対前年+8%の増収、「生命保険料」は▲2%の減収となりました。あんしん生命における「事業保険の解約増加」はありますが、International 事業を中心に、全体の基調は引続き「良好」です。
- その中で、2024 年度の通期予想ですが、「正味収入保険料」は、レートアップや引受拡大をドライバーに、対前年「+9%」の着実な増収を見込んでおります。そして、「生命保険料」は、対前年「▲17%」と、大きく減収に見えますが、実はこれは、あんしん生命が今年 4 月に実行しました「ブロック出再」の影響です。正に「レガシー・ポートフォリオの一部を、再保険の形で出再した」訳ですが、一方で、見合いの責任準備金も取り崩しますので、利益へのインパクトは nominal です。
- 次に、修正純利益についてご説明しますので、5 ページ、6 ページを見開きでお開きください。

【修正純利益 2023 実績 (Actual / Normalized)】

- 2023 年度の Actual ベースの実績は、先程ご説明の通り「7,116 億円」と、2 月公表対比では、「+216 億円の上振れ」。対前年では、「+60%の増益」で着地しています。但し、この数字には、「自然災害」や「政策株式の売却金額の増減」、「コロナ反動」などのノイズが含まれており、これらを捨象した「Normalized 利益」が、経営としての実力を見る上では、重要だと考えております。
- この「2023 年度の Normalized 利益」は「6,855 億円」でありまして、対前年では、「+11%」成長と、世界トップクラスです。2023 年度は、北米における「CECL 引当て」など、一定のキャピタル損失も認識した訳ですが、グループ全体の「保険引受、および資産運用」は、共に好調で、実力を確実に高めていると考えております。
- 続きまして、「2024 年度予想」についてご説明しますので、7 ページにお進みください。

【修正純利益 2024 予想】

- 「修正純利益の 2024 年度予想を、“1 兆円”としたこと」、そして、「これには、“政策株式の売却加速”による利益が乗っていること」は、先程ご説明の通りです。具体的に、2024 年度の「政策株式“売却額”は、“6,000 億円”」を企図しており、利益を対前年で「+3,000 億円」引き上げます。
- そして、この「政策株式売却益を“除いた”2024 年度利益」については、①4 月に兵庫県で大規模な震災が発生したこと等を織り込み、国内外の自然災害予算を、期初から積み増す必要があると考えたこと、②過年度リザーブについて、前期は+290 億円と大きな取崩し益を計上したところ、2024 年度の期初段階では、これを織り込まないことなどから、“保守的に”、対前年で「+2%」成長としております。
- 次に、「新中計における“KPI ターゲット”」ですが、8 ページとなります。

【新中計 KPI ターゲット】

- ターゲット数字につきましては、先程ご説明の通りですが、私どもとして重要なポイントは、「政策株式売却益を“除いた”ベース」で、「“世界トップクラスの EPS Growth”を実現していくこと」だと考えております。
当社の EPS Growth ターゲットは、CAGR で「+8%以上」となる訳ですが、内訳は、「利益成長で“+7%以上”」、そして「自己株取得で“+1~2%」です。即ち、引続きドライバーは、世界トップクラスの利益成長となりますが、この数字は organic growth がベースとなっています。つまり、「分散の効いた U/W ポートフォリオ」と、「その負債特性を活用した強固な資産運用収益」により、volatility を抑えながらも、国内外で力強い成長を実現してまいります。
- また、ROE のターゲットは、従来定義と同様の“政策株式の売却益込み”では、「20%以上」となります。この分子から、「政策株式の売却益」のみを、単純に控除したベース、即ち分母には、「政策株式の含み益」が含まれているベースですので、必ずしも分子と分母で apple to apple ではないですが、このターゲットは「14%以上」です。
足元、株高や円安により、純資産が増えておりますけれども、我々は一貫して利益成長と、規律ある資本政策の実行を通じて、ROE を Global Peers 水準に引き上げていきます。
- 私からの最後になりますが、昨年、東京海上日動で発生しました 이슈 につきましては、資本市場の皆様にご心配とご迷惑をお掛けし、誠に申し訳ございません。改めてお詫びを申し上げます。
そして、足元では団体扱契約について報道がなされていることは承知しておりますが、本件は一連の 이슈 の内法です。2 月末に当局に提出いたしました業務改善計画に含まれておりますし、既に各種取組みを進めております。
再発防止は元より、会社をどの様に創りかえるのか。この辺りにつきましては、今週金曜日に開催します「経営戦略説明会」におきましても、十分にご説明をさせていただきます。
- また、この 3 月末までの前中計期間を振り返りましても、世界中で様々な challenge がありました。しかし、当社は危機を決して無駄にはしない、その気持ちで、その都度、グループの力を結集して、事に当たり、乗り越えてきましたし、その中で、着実に実力を高めてきたと考えております。
足元の事業環境も決して簡単なものではないという認識ですが、この間、当社が培ってきたのは「強い事業基盤」と「困難を乗り越える力、“Responsive 力”」。これらを背景に、次の 3 年間も、そしてその先も、「世界トップクラスの EPS Growth を実現し続けていく」、「ROE も引き上げていく」、そうした強い想いを持って、経営にあたってまいります。
- 引続き、ご支援をよろしくお願いいたします。

2. 岡田 CFO プレゼン

【株主還元】

- CFO の岡田でございます。最後に、株主還元についてご説明させていただきますので、9 ページ・10 ページを見開きをご覧ください。
- 改めまして、当社の株主還元の基本は配当で、「利益成長に応じて、持続的に DPS を高めていく」というものです。
- その中で、2023 年度の DPS ですが、今般、年初計画から「+2 円増配」し「123 円」に、「DPS Growth では+23%」とすることといたしました。
これは、「2023 年度の修正純利益」が、自然災害や北米キャピタル損などの影響を一定受けたものの、International 事業を中心とした「強い基調」が打ち返し、DPS の前提としておりました「期初予想」および「11 月予想」対比でも、利益が上振れて着地したことを反映したものです。
- そして、この4月から新中期経営計画がスタートしましたが、その初年度である 2024 年度については、修正純利益の5年平均に対して配当性向 50%という方針を継続します。従って、2024 年度は修正純利益「1 兆円」を計画していますので、その計画数字に基づき、2024 年度の DPS は「+36 円増配」となる「159 円」に、DPS Growth にして「+29%」といたします。
- 今後ですが、当社は、2025 年度末に IFRS を導入しますし、ICS も導入されます。これらに伴いまして、26 年度からは利益など各種指標や定義を見直す必要があります。現時点では、見直し後の内容については未定であり、今後社内での検討、そして、資本市場の皆さまとも丁寧な対話及び議論を重ねた上で、IFRS 導入の半年前にあたる 2025 年の秋に、各種指標や定義、及びそれに基づく株主還元方針等についてご説明したいと考えておりますが、当社としては、IFRS 導入後も、世界トップクラスの EPS Growth と、それと整合的な DPS Growth を継続して実現すべく、配当性向の水準も含め総合的に検討したいと考えています。
- 次に、「資本ストックの調整」についてです。
- 当社の「資本政策の考え方」は、従来と変わるところはありません。即ち、「Organic Growth やポートフォリオの見直しで創出した資本は、先ずは、当社の ROE 向上に資する M&A やリスクテイクに充て、そうした機会に恵まれなければ、当社には資本を無用に積み上げる意図はありませんので、自己株取得を実行していく」というものです。
- その中で、足元の ESR は 140%と充実した水準にある訳ですが、当社としましては、M&A のパイプライン、事業環境等を総合的に勘案し、2024 年度の自己株式取得を、現時点では「2,000 億円」とすることといたしました。本日は、最初の一步として、1,000 億円を決議しております。
- なお、新中期経営計画の EPS ターゲットを構成するものとして「自己株取得」として「1 ~2%」を掲げておりますが、今年度の予定金額はその方針とも整合的なものと考えて

おり、**Global Peers** においても時価総額に対して**2%**程度の自己株式取得が一般的となっていることも勘案しております。

- 当社といたしましては、新中計におきましても、経営戦略を着実に実行し、**EPS**も**ROE**も、**volatility**を抑えながら、引き上げていく、そして、資本市場の皆さまのご期待に応じていきたい、この様に考えていますので、引続きのご支援をよろしくお願いたします。
- 私からのご説明は以上です。

以 上